

腹の底から大きな声を出す。それが一番

有限会社大宝産業代表取締役 ^{まえだ}前田 ^{しずこ}倭古 さん

生きのいい魚貝類を扱う店が所狭しと並ぶ。ここは京の台所を支える京都市中央卸売市場第一市場（京都市下京区）。その水産棟の一角に、ひときわにぎやかな声が響く。マグロを除いてあらゆる魚などを取り扱う仲卸業の前田さんの店だ。

アルバイトを含め33人の従業員を束ねる現役ばりばりの社長さんである。大きな声と仕事への情熱は若い者も顔負けだ。77歳とはとても思えない。

「おはようございます」「ありがとうございます」。どんなお客さんに対しても、こちらの方から進んであいさつするのが店のモットーと話す。

午前1時半の起床から前田さんの一日は始まる。テレビで韓流ドラマを見た後、自宅から近くの市場の店に午前3時半に出勤し、午前10時半ごろまで商売の陣頭指揮に立つ。

午後8時半には寝ることにしているが、プロ野球があるこの時期は「あきませんのや」と苦笑い。というのも阪神タイガースの大ファンで、勝つても負けても好きな日本酒の量が増え、つつい寝る時間が遅くなるという。会長のご主人は酒は一滴も飲めないとい

か。

健康法は？「タバコを吸いますが…、食べ物では、干した魚や肉類が大好きですね。夕食は、ご飯は食べずおかずだけにしています」。「毎日、店の中を行ったり来たりしてますので仕事は運動になってます。それに意外と体は柔らかいんですよ」と話し、なんと、片足を頭の上に付けて見せてくれた。参りました。

四字熟語など漢字の問題集を買い込

み、頭の体操も欠かさない。

最大の健康法は「腹の底から大きな声を出すこと」。3年前から始めた民謡を仕事の合間などに、店で大きな声を出して歌うという。時にはハリー・ベラフオンテの「バナナ・ボード」も披露する。お客さんが少ない時には、大きな声で「お客さん、来てくださいと叫びますねん」。

「肝っ玉お母ちゃん」の元気な声が、きょうも市場に響きわたる。

